

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具体的な取組	自己評価		結果の考察・分析および改善策等
				取組別	総合	
体 育	<p>重点目標</p> <p>自らきたえる子ども の育成</p> <p>手段</p> <p>1 進んで運動に 取り組む子を増 やす。</p> <p>2 最後までやり 抜く経験を増や す。</p> <p>3 立腰を意識し、 実行できる子 を増やす。</p>	1について 新体力テスト総合評 価D・E段階児童の減少 (男子27%以下、女子 30%以下)	1について (1) 運動に関する実態把握 (2) 教科体育・遊び等での運 動に対する意識の高揚と運 動する機会の増加	3	3	1について ○ 児童のアンケートによると「昼休みは、元気に外で遊んで いますか。」の問いに対して81%が肯定的な意見であった。 ○ 保護者のアンケートでは、「家庭で運動したり、自分で歩 いて登校したりしていますか。」の問いに対しては、94% が肯定的な意見であった。 ○ 本年度実施した新体力テストの総合評のD・E段階の児童 は、男子が33.8%、女子が29.2%であった。昨年度 とほぼ同様であったが、男子は、目標値には届かなかった。 種目別に見てもソフトボール投げや握力など、男子に比 べると女子の伸びが大きかった。
		2について やり遂げる気持ちの 高揚と習慣化	2について (1) 責任感や、やり抜いた経 験についての実態把握 (2) 学習や係活動、手伝い、 少年団活動等における実行 と称賛	3		2について ○ 児童のアンケートによると「学習や係活動、手伝いなどに、 最後までしっかり取り組んでいますか。」の問いに対して8 9%が肯定的な意見で、職員のアンケートでは、92%が肯 定的な意見であった。 ○ 保護者のアンケートでは、「家庭で学習やお手伝いなどに 最後までしっかり取り組んでいますか。」の問いに対して8 3%が肯定的な意見であった。 ◇ 日常的な取組や称賛により、児童に少しずつやり遂げる気 持ちは高まってきている。家庭学習については、個人差があ るので継続的な働きかけが必要である。
		3について 立腰の習慣化	3について (1) 立腰についての実態把握 (2) あらゆる機会を捉えて、 学級全体並びに個人へのメ リハリのある指導と称賛	3		3について ○ 児童のアンケートによると「授業中は、立腰の姿勢で話を 聞くことができますか。」の問いに対して63%が肯定 的な意見であり、職員のアンケートでは、40%が肯定的な 意見であった。 ◇ 毎時間の授業の始めと終わりや全校朝会の始めと終わりに 毎回、立腰を意識した指導を行っている。機会を捉えた指導 の継続により児童の立腰についての意識は高まってきてい るが、常にその姿勢を維持することは難しい面がある。

